

すこやか

岐阜県総合医療センターの理念

県民の皆様方に信頼され、患者様本位の安全で良質な全人的医療を提供します。

岐阜県総合医療センターの基本方針

- 一、岐阜県の基幹病院として急性期を中心とした医療を担当します。
- 二、科学的根拠に基づく医療の提供と医療安全に努めます。
- 三、必要な医療情報を広く公開し、医療の信頼性を確保します。
- 四、地域の医療機関や福祉施設との連携を重視します。
- 五、迅速かつ確実な医療とともに、効率的な病院運営に努めます。
- 六、医学的知識、医療技術の研鑽に努め、医学や医療の進歩に寄与します。

地域との連携を目指す 岐阜県総合医療センター

岐阜県総合医療センター 副院長 兼 看護部長 橋本 波枝



昨年11月6日に待望の岐阜県総合医療センターをオープンすることができました。電子カルテをはじめ多くのハイテク機器を装備した21世紀の病院です。冷たく感じるIT化を「安心や癒し」に向けるのは、私達職員の務めです。岐阜県立岐阜病院同様、患者様や医療機関の皆様にあいさせられる病院として医療サービスの向上に職員一同努力して参ります。

さて、昨今の社会情勢の変化から一施設では医療が完結できない時代となり、患者様の生命や健康な生活を守るため医療や福祉機関と如何にコラボレートしていくかを問われています。新しい病院では、病診連携部門の機能を充実し、患者様を中心に診療所や関連病院の方々とタイムリーで有効な連携を目指しています。その一環として、小林病診連携部長らが開放型病床ご利用の先生方に「提携施設認定書」をお届けしています。訪問活動を通しface to faceの重要性が伝えられています。

新病院オープン1ヵ月で早くも以前の病床利用率となり、急性期医療を担う当院としては、今後更なる前方連携・後方連携が重要であると痛感しています。関係者の皆様のご協力をお願いすると共に、連携に向け院内の医師や退院調整看護師の活躍に期待するところです。当院が中心に推進している「大腿骨頸部骨折地域連携パス」では、各医療機関のご理解・ご協力により徐々に連携施設が拡大しています。患者様が身近な生活圏で安心して治療や療養ができる「診療ネットワーク」づくりに関係者の方々と協力し合えることは素晴らしいことです。また、医師会の指導で当院でも「かかりつけ医」の先生方と共同で行う「心筋梗塞」と「ウィルス性肝炎」の地域連携パスがいよいよスタートします。活用之际には、より多くの地域の医療機関の皆様にご使用していただきたいと思っています。更に、平成19年1月から「がんセカンドオピニオン外来」を設置しました。これも各主治医の先生方のご紹介により機能する体制となっています。引き続き益々のご支援・ご協力をお願い致します。

助かってます!病診連携

五島医院 五島 英一

総合医療センターの先生、スタッフの皆様には常日頃から大変お世話になり、ありがとうございます。病診連携では当方がお世話になるのみで、あまり病院のお役に立てていないのではと懸念しています。

当地から貴院まで、若干距離はありますが、貴院への受診を希望される患者さんは多く、お世話になった方は皆親切、丁寧に対応していただいたと喜んで帰ってきます。これも先生方をはじめスタッフの皆様のご配慮の賜物と、感謝しています。最近では内科、外科はもちろん、婦人科、整形外科、眼科、脳神経外科、耳鼻科、皮膚科などほぼ全科にわたりお世話になることが多くなってきました。

また本院の時間外や休日に緊急で貴院の救命センターでお世話になることも多々あり、ご迷惑をおかけしています。もし患者さんが紹介状なしで受診、入院された場合には、FAX等で連絡頂ければ、当方もなるべく速やかに経過や投薬内容などを返信するようにしますので、ご配慮いただけますようお願いいたします。

日頃、患者さんの連絡等で、担当の先生に突然お電話を差し上げることもあります。勤務中のお忙しいときにもかかわらず、丁寧に対応していただき、恐縮しております。

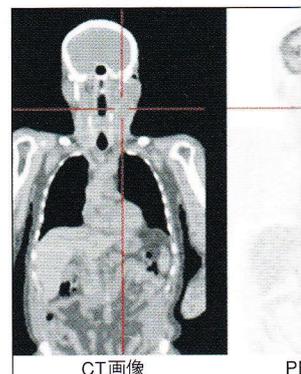
最近、各種講演会やカンファランス等で、病院の先生方と直接お話できることがあり、とても楽しみにしています。病院・クリニック間のこのようなコミュニケーションがこれからの病診連携がより充実していく上で大切であり、また以前にもこのコーナーに岐阜市の先生が述べられていましたが、こういった機会に、連携で困った症例や悪い紹介例などを具体的に教えていただくと今後の参考になるかと思えます。

新病院を機に、ますますの発展を心よりお祈りいたします。

放射線科の紹介

当科は、主に院内および院外の医師からの依頼によって下記の診療を専門に行っています。

その1つの業務は、全身の画像診断です。院内各科によりオーダーされた画像(特にCTやMRI、各種アイソトープ検査)を読影し、読影レポートとして結果を配信しています。専門家が読影することにより、より精密な結果が得られ、ダブルチェックにより見落としの少ない診断となります。また、病診連携部を通じて開業医の先生方から依頼された検査も行い、読影レポートを返信しています。また平成18年11月よりPET-CT検査も稼働され、2人のPET核医学認定医が検査の実施・読影を行っています。PET-CTはポジトロンと呼ばれる陽電子を放出する薬剤をブドウ糖に結合させて体内に取り入れ、その動きを専用の装置で撮影します。これによって小さながんの発見が格段の精密さで行え、しかも各臓器ごとの検査ではなく一度に全身の検査ができる最先端の画像診断装置として注目されています(図)。



CT画像

PET

PET-CT (喉頭がん頸部転



小児循環器科紹介

【スタッフ】：桑原尚志部長、桑原直樹主任医長、
後藤浩子医師、坂口平馬医師

平成9年5月、県立岐阜病院に小児心臓外科が設置されたときより小児循環器科としての実質的な活動が始まりました。平成11年10月より小児循環器病床が開設され、一般小児患者とは独立した病床となり、24時間体制で集中治療管理できる体制となりました。平成18年11月には岐阜県総合医療センター開院に伴い、小児循環器病床20床、うちオープン病床5床を開設しました。

先天性心疾患(生まれつきの心臓のかたちの異常)、不整脈(心臓のリズムの異常)、心筋疾患(心臓の筋肉の異常)、川崎病後の後遺症(冠動脈障害など)などの病気を主に診療しています。最近では成人となった先天性心疾患患者も増加しており、胎児期から成人まで、子供やその家族を含めてよりよい日常生活をめざし、小児循環器科、小児心臓外科、新生児科、麻酔科、看護スタッフ、臨床工学技士、理学療法士、検査技師らとの緊密な協力体制のもと、日夜患者様の治療を行っています。

当科では、年間約180例の心臓カテーテル検査を施行しています。この中にはカテーテルバルーン拡大術やステント留置術が約20例、動脈管や側副血行路に対するカテーテルコイル塞栓術が約10例、不整脈に対するカテーテルアブレーション治療が約10例あります。小児心臓外科では年間約100例の心臓血管手術が行われており、術前術後を含め協力して診断および治療にあたっています。

トピックス

1) カテーテルアブレーション

不整脈のなかには、根治の期待できるものもあり、頻拍発作により日常生活が脅かされることがなくなります。カルトシステムを導入しており、体格の小さい患者様や先天性心疾患を有する患者様まで幅広く、カテーテルアブレーションによる不整脈治療を取り入れています。

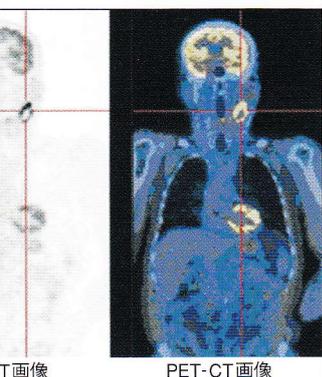
2) 心肺運動負荷試験

心疾患患者様の生活のうえで気になるのは「どのぐらい運動できるの?して大丈夫なの?」という点だと思います。従来のトレッドミル負荷のみではなく、心肺運動機能をより把握することにより適切な運動域を予測し、治療に役立てています。



桑原尚志部長 桑原直樹主任医長 後藤浩子医師 坂口平馬医師

【スタッフ】：三宅 浩 (放射線科部長)
柳川繁雄 (腫瘍放射線治療科部長)
金子 楊 (放射線科医員)



CT画像

PET-CT画像

もう1つの業務は、がんの放射線治療です。平成18年11月から導入された新型ライナックにより年間約300例のがん放射線治療を3次元原体照射により行なっています。平成19年からは脳腫瘍のラジオサージャリー、体幹部腫瘍に対する定位照射も開始する予定です。他院との連携では、症例に応じて強度変調放射線治療(IMRT)を木澤記念病院、子宮頸癌の腔内照射(RALS)を岐阜大学放射線科、頭頸部腫瘍の小線源治療を愛知県がんセンターに依頼できる体制にあります。また、がん治療に関するセカンドオピニオン外来(・手術か放射線か?・重粒子線治療の適格判定と治療施設への紹介など)も行なっています。

放射線診断、および治療に関するご依頼がありましたら遠慮なくご相談下さい。

平成18年度岐阜県総合医療センターオープン病床 クリニカルミーティング開催

日時:平成19年2月15日(木) 午後7時30分～9時15分

場所:岐阜県総合医療センター 研修・検査棟 3階研修室

登録医の先生42名、訪問看護ステーションの方9名をお迎えし、院内職員を含めて142名の参加で盛大に開催できましたことをまず御礼申し上げます。

今回のクリニカルミーティングでは、まず恒例の「オープン病床の運営報告」を行いました。

次に、「新しい医療」では、ご要望が多数ありました最新の診断機器であるPET-CTについて、MRIの最新の機能を含めて、放射線科の金子揚医師から報告がありました。

「症例検討」では、前田学皮膚科部長から、シェーグレン症候群を中心とした解説がありました。

最後に今回初めて企画いたしました「スモールグループミーティング」を行いました。7つのグループに分かれて頂き、その中で日頃感じておられることを気軽に述べあっていただく企画です。各グループともに大変活発に意見がだされました。以下にその一部を記載致します。

- 1) 施設について:開放病床診療に来院する連携医用の駐車場は整備されよいが、患者用駐車場がたりない。料金をとるなどして管理したらどうか。
- 2) 共同診療に関して:病院医師に負担ではないか。行っても師長以外いないことがある。夜や土日でもよいか。
- 3) 病院の体制について:外来診療を減らして入院中心とし、地域で外来患者を診てゆくのがよい。入院要請は受けて欲しい。患者は大病院志向が強いのでかかりつけ医を持つよう勧めて欲しい。
- 4) 紹介・報告・連携について:紹介返書は早くなっているありがたいが、その後、転科・転院などの連絡がこない。紹介の際薬についての情報(どのような薬をだしているかなど)を早めに欲しい。地域に施設も増えているので、脳卒中後の方も相談して欲しい。
- 5) 病院医師について:医師の専門分野がわかるようにして欲しい。自分の専門分野の疾患だけでなく、患者の持つ病気全体も診るようにした方がよい。
- 6) 開業医師について:在宅ホスピスなどをやってほしい。
- 7) 訪問看護ステーション:在宅になる患者について早めに対応してもらえるのでありがたい。
- 8) 救急患者を紹介しても満床と断られることがある。満床時のシステムが欲しい。

他にも多くのご意見ご感想をいただき、この企画は大変好評でした。寄せられたご意見を真摯に受け止め、ご参加頂いた皆さんと共によりよい仕組みとなりますよう取り組んでいきたいと考えております。今後ともこの会がより発展していきますようご指導のほどお願い申し上げます。

病診連携部



編集後記

岐阜県総合医療センター病診連携新聞第12号をお届けします。
病診連携に向けて、先生方に少しでもお役に立てる紙面を目指しています。
ご意見、ご要望がございましたらお寄せください。お待ちしております。

岐阜県総合医療センター

〒500-8717 岐阜市野一色4丁目6番1号
TEL (058) 246-1111 (代) FAX (058) 248-3805
http://www.pref.gifu.jp/gifu_hospital

発行/岐阜県総合医療センター病診連携推進部会